

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	健診による疾病予防事業			事業番号	01-104
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	保健福祉部健康づくり担当	吉川 武士	健康づくり課	高橋 健一	

計 画 (Plan)

総合計画体系	暮らし力	まちづくり目標	1	誰もが明るく暮らせるまち	
		基本政策	1	健やかに生き生きと暮らせるまちづくり	
		施策展開の方向	1	生涯にわたって健康に暮らせるまちをつくる	
		施策	1	心と体の健康づくりの推進	
予算事業名	健診・保健指導事業費／39歳以下健康診査事業費 疾病予防事業費				
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 (選択してください)→		法令上の位置づけ	実施する規定はない	
事業開始年度	開始年度	平成25年度以前	～	終了年度	—
関連法令等	高齢者の医療の確保に関する法律				
国・県の計画等	健康日本21 かながわ健康プラン21	計画期間	平成25年～平成34年度改定予定		
関連個別計画	健康いせはら21(第3期)計画、第3次伊勢原市食育推進計画	計画期間	平成30年～平成34年度		
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	本市の平成27年度特定健康診査受診率は36.8%、一般健康診査は40%で約6割の方が健康診査未受診となっています。また、平成27年度神奈川県国民健康保険における主な生活習慣病の医療費占有率において、糖尿病の占有率が5.94%と高い現状があります。				
目的 (何をどうしたいのか)	特定健康診査の対象とならない39歳以下の市民を対象に健康診査や健康相談を実施し、若い世代に対して健康意識の高揚を図ります。また、東海大学医学部と連携した健康バスによる測定会や、健康診査未受診者へアプローチとして講演会を実施することで、健診受診や疾病予防に対する意識・動機を促進し、疾病の早期発見、早期治療に繋げるなど、健康寿命の延伸と健康格差の縮小に向けた取組を推進します。				
主な対象 (誰・何を対象に)	39歳以下の市民 市民				
事業内容 (手段、手法など)	<ul style="list-style-type: none"> ・健診の受診を促すため、東海大学医学部と連携した健康バスによる測定会を開催します。 ・若い世代の健康意識の醸成を図るため、39歳以下健診の実施を推進します。 ・疾病等に対する知識の普及啓発を図るため、医療機関等と連携した市民公開講座を開講します。 ・糖尿病の医療費占有率が高いことから、若い世代に対する糖尿病予防事業の在り方や肝炎ウイルス検査の実施検討を進めます。 				
事業行程	項目	年度			
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	39歳以下健康診査の実施	240人に実施	240人に実施	240人に実施	
	市民公開講座の開講	19回実施	20回実施	21回実施	
	肝炎ウイルス検診の実施	導入検討	新規導入	実施	
血糖値測定検査の実施	導入検討	新規導入	実施		
目 標	【指標名】	【現状値】	年度		
			平成30年度	令和元年度	令和2年度
	健康バス測定会の参加者数	449人 (平成28年度)	600人	650人	700人



事業実施 (Do)

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)					
実施方法 〔選択・記入〕	○ すべて直接実施		● 左記以外		
	<input checked="" type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	委託先又は指定管理者	宗教法人寒川神社寒川病院 特定非営利活動法人健康長寿研究教育センター	
	<input type="checkbox"/> 補助金		補助先		
	<input checked="" type="checkbox"/> その他		具体的内容	集団健康診査 いきいき健康講座 健康バス測定会	
実施結果	項目	年度			
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	39歳以下健康診査の実施	152人に実施			
	市民公開講座の開講	14回実施			
	肝炎ウイルス検診の実施	導入検討			
血糖値測定検査の実施	導入検討				
実施した取組の内容	39歳以下健康診査、健康バス測定会、講演会(いきいき健康講座・東海額公開講座・伊勢原協同病院公開講座)				
目標の達成状況	【指標名】	【現状値】	年度		
			平成30年度	令和元年度	令和2年度
	健康バス測定会の参加者数	449人 (平成28年度)	555人		

コスト	年度	平成30年度 実績		令和元年度 実績		令和2年度 実績				
	事業費合計 (a)	1,838	千円	0	千円	0	千円			
	内訳	国県支出金 ①	157	千円	0	千円	0	千円		
		地方債 ②	0	千円	0	千円	0	千円		
		その他特財 ③	0	千円	0	千円	0	千円		
		一般財源 (a)-①-②-③	1,681	千円	0	千円	0	千円		
	国県支出金の内容	平成30年度未病月間推進事業補助金								
	その他特財の内容	受益者負担	● 有 ○ 無		前回の改定時期					
		その他								
	人件費	正規職員	1	人	8,510	千円	0	人	0	千円
		その他の職員	0	人	0	千円	0	人	0	千円
		人件費合計 (b)	1	人	8,510	千円	0	人	0	千円
	トータルコスト (a)+(b)		10,348	千円	0	千円	0	千円		
	単位当たりコスト	対象数	定義	16~39歳以下の人口	単位		単位		単位	
			対象数	28,244	人					
		総事業費 / 対象数	366	円		円		円		

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 計画どおり (A) <input checked="" type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	B	左記判断理由	39歳以下健康診査は、目標値を上回らず、前年度比より参加者数が減っています。また健康バスはイベント時の実施回数の減による人数の減がみられましたが、新規の自治会の参加も得られています。また、いきいき健康講座等は参加者数が伸びています。
実施水準 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input checked="" type="radio"/> 一律に比較できない事業	—	他都市の事業内容等	39歳以下健康診査については、他市における実施手法は、集団健診や個別健診など様々であることや、健康バス測定会や講演会等については東海大学や伊勢原協同病院との連携により開催した事業であり、他自治体との比較は難しいと考えられます。
有効性 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 高い (A) <input checked="" type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	B	左記判断理由	身近な場所へ出向き、健康診査の重要性の認識が得られるように講座・測定会等を行いました。健診受診率の向上が明確になるには至りませんでした。相談会等で個々への『アプローチ』を積み重ねています。
効率性 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input checked="" type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	B	左記判断理由	39歳以下健康診査では、集団健診の形態を生かし、健診のみでなく保健師・栄養士による骨量測定相談会や歯科衛生士による歯科相談会を併設実施しています。保育付サービスを実施し、受診環境に配慮した取り組みを行っていますが、更なる受診者の増加を得るための周知等が必要です。



取組の改善 (Action) へ

取組内容の改善 (Action)				
所属長による今後の方向性の判断	方向性 〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 見直しの上継続	事業推進上の課題	健康に関する意識・知識の普及を行うとともに、健康行動を継続し習慣化できるような働きかけが求められています。そのため若い世代からの健康に対する意識付けの必要性や、家族や地域などの集団で健康について関心を持つ必要があります。
令和元年度の取組方針		健康いせはら21(第3期)計画の着実な遂行に努めます。基本方針の疾病予防と早期発見ができる取組により、自分自身や家族での健診(検診)の受診を意識付けを行います。健康バスの新規実施場所の開拓や簡易血糖値測定検査の実施等により、新たな層へのアプローチを進めていきます。		
所管部長による総評		本市は、東海大学医学部付属病院や伊勢原協同病院が立地するなど、医療環境に恵まれており、今後も病院や医療関係機関と連携を強化しながら、検診事業や啓発事業を展開していくことが重要と認識しています。また、今年度から新たに開始する簡易血糖値測定検査については、若年層の受診者を増やしていく取組が必要です。		